会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（美住町自治会）
2　日時	平成30年10月6日（土）11：30～12：30
3　場所	小和田公民館
4　出席者	（資源循環課）原田副主査、下舞主任 （環境事業センター）尾坂主幹、和田主事 （美住町自治会）参加人数：64人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●来年度に、家庭ごみ有料化と戸別収集の方向性が決定すると記載があるが、方向性を決めるにあたり、重要視するものはなにか。また、導入の是非についてどのような意見があるか。 →皆様の意見を反映する必要があるので、アンケートを重要視する。また、戸別収集の必要経費も重要視している項目である。現在、戸別収集にかかる必要経費を試算中である。導入の是非についての意見だが、15年後に焼却灰の処理経費が増大することを踏まえ、「有料化やむなし」という意見や、「ごみ処理経費は税金でまかなうべきである」などの意見がある。 ●戸別収集の必要経費が赤字なら導入しないのか。 →赤字なら導入しない訳ではない。どの程度の負担になるか、費用対効果などを検討する必要がある。 ●アンケートに「本市のごみ処理経費について」の質問があるが、近隣都市のデータが無いので比較ができない。 →県と国と比較した資料があるので参考にしていただきたい。 ●戸別収集を導入すると、ごみを排出する場所が集積場所から各家庭に変わるが、有料化になった場合、自分の敷地内にごみを出すのか。 →家庭ごみ有料化は市が指定したごみ袋を買って、ごみを排出する施策である。戸別収集は戸建ての場合、現在の集積場所ではなく、敷地内にごみを排出する施策になる。現在、袋の歳入や戸別収集の経費を試算中である。どちらかを導入するか、両方導入するか、両方導入しないかは未定であり、来年度中に方向性を決める予定である。 ●戸別収集の対象品目は資源物なのか。戸別収集が導入された場合、現在使用されている、カラス除けのゲージは不要になるか。 →先行市は、燃やせるごみと燃やせないごみを対象に戸別収集を導入していることが多い。資源物は対象としていない自治体が多く、プラスチック製容器包装類は軽く風で飛散しやすいので、その対策に使用している自治体がある。

●家庭ごみ有料化は導入されると思うが、有料化したらごみは減量できると思う。しかし、ごみ袋の作成経費がデメリットである。また、不法投棄の監視に力を入れると記載があるが、これは誰がやるのか。環境指導員が行うことを想定しているのか。資源ごみの集積場所は 37 箇所、燃やせるごみの集積場所は 120 箇所ある。今でさえ不法投棄が多く、４人で監視等を行っている状況である。そういう経費や労力を自治会に押し付けられたら困る。指定袋で排出されない場合はどうなるか。家庭ごみ有料化を導入する場合、どれくらいの周知期間を考えているか。
→藤沢市ではコールセンターを設置して、不法投棄に対応したと聞いている。家庭ごみ有料化が導入された場合、不法投棄の監視に力を入れる予定である。不適正排出への対応は今まで通りの予定である。臭いや衛生的に問題がある場合、環境事業センターに問い合わせをお願いする。家庭ごみ有料化を導入する場合、周知期間は来年度中に決める予定である。

●藤沢市は段階的に家庭ごみを有料化にしている。最初に大型ごみを有料化にしてから家庭ごみ有料化を行った。本市も、そういう手順を踏む必要があり、経緯が非常に大切である。ごみ袋を購入にするという行為は、ごみを購入する感覚がある。多くのスーパーでレジ袋を断った場合、ポイントがもらえるので、それを原資に有料袋を作成できないか。本市で家庭ごみ有料化を導入すると混乱が起きると思う。本市も藤沢市のように、大型ごみを有料化にしてから徐々に有料化にしたほうがよいと思う。生ごみの集積場所はカラスが食い散らかしている状況であり、市が検討すべきところは山ほどある。
→本市も大型ごみを有料化にしている。本市において 15 年後に最終処分場が使用できなくなることが、最大の問題である。最終処分場は土地確保の問題があり、市内に新しく建設できない状況である。また、日本全国で最終処分場は作らない方向性になっている。最終処分経費が増大することが想定されるので、それに向けてごみ減量を啓発する必要がある。そこで、ごみ減量に有効な手段として、以前から検討してきた、家庭ごみ有料化があり、それを本格的に検討する時期にきているというところが、家庭ごみ有料化を検討している経緯である。

●本市のごみの持ち込み方法が煩雑である。最初に車の重さを量った後に、ごみを降ろして、もう一度車の重さを量っている。
●藤沢市や大和市が有料化を導入しているからといって、単純に家庭ごみ有料化を導入するべきではない。
●平塚市はごみの品目数が多いので、分別がいい加減になってしまう。近隣のそういった状況に対する対応策を十分に検討して欲しい。
●家庭ごみ有料化と戸別収集は別施策なのか。それぞれ異なる施策ということは、片方は導入して、もう片方は導入しないことがあるか。
→別施策である。どちらかを導入するか、両方導入するか、両方導入しないかまだ決

	まっていない状況である。 ●家庭ごみ有料化に反対である。ごみ処理は税金で賄うべきである。本市は柳島のスポーツ公園や文化会館など、新しい建物を建てて建築費や維持費がかかっている。行政改革はどうなっているのか教えて欲しい。市の取り組みが市民に伝わってこない。行政改革をすれば、ごみ処理経費を賄えるのではないか。40Ｌの袋は 80 円、週２回で 160 円、月で 640 円かかる。年間で 7680 円もかかり、これは、税金と同じことではないか。ごみ収集は今まで通りの方法で行って欲しい。 →資源循環課が取り組んでいる経費削減施策として、廃食用油と金属類の収集の検討がある。これらは回収量が非常に少ないため、もっと効率的な収集方法がないか検討中である。 ●市のお金の使い方に問題がある。スポーツ公園の維持管理費に２億円かかっている。そこの行政改革を行って欲しい。パブリックコメントを実施しているが反映されていない所が不満である。アンケートをとって、有料化反対が大半の意見になったら導入しないのか。方向性を決めるにあたり、重要視することは何か。 →アンケートは市民の声なので最重要している。パブリックコメントの意見も尊重している。現時点でいくつかの自治会に意見交換会を行ったが、様々な意見がある。「経費がかかるから戸別収集は止めたほうがいい」という意見や、「戸別収集は便利になるからやったほうが良い」などである。本市はごみ減量の必要性があるので、有効な施策である、家庭ごみ有料化と戸別収集を検討している状況であり、検討する必要はあると感じている。しかし、市民生活に影響があるので慎重に行っている状況である。 以上